



かんかくとうごう

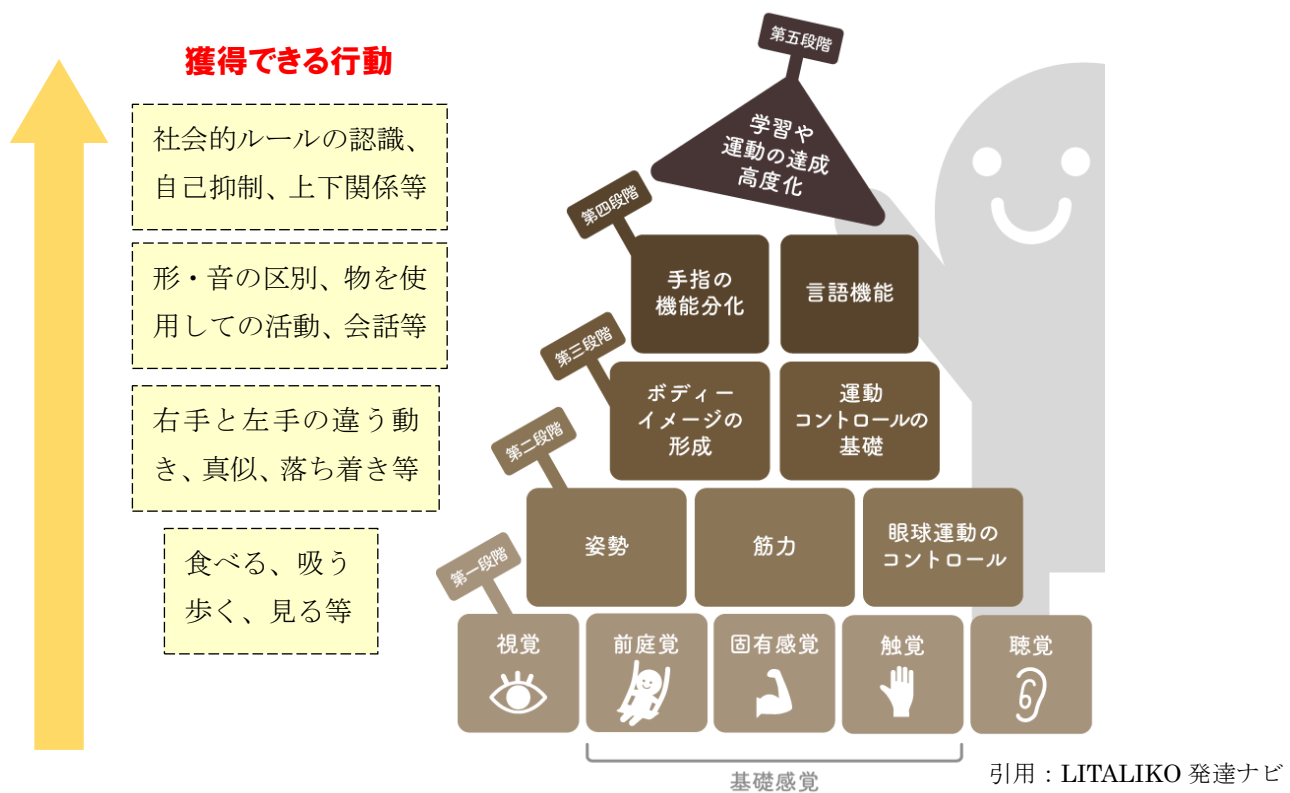
# 感覚統合による子どもの成長段階



人間の感覚には、五感(触覚、視覚、聴覚、味覚、嗅覚)に加えて、固有受容覚(手足の状態・筋肉の伸び縮みや関節の動きを感じる感覚)、前庭覚(身体の動きや傾き、スピードを感じる感覚)といった合計7つの感覚があります。

次々と身体に入ってこようとするこの **7つの感覚を整理したり分類したりするのが感覚統合**です。このはたらきによって、その場その時に応じた感覚の調整や注意の向け方ができるようになり、自分の身体を把握する、道具を使いこなす、人とコミュニケーションをとるといったような周囲の状況の把握とそれをふまえた行動ができるようになります。

例えば、本人は軽く肩を叩いているつもりが、実際には「痛いほどの強い力で叩いてしまっていた」、ものをただ置くだけのつもりが「強く叩きつけてしまっていた」、これらの行動は感覚の未発達によって力の調節がうまくできないことが本当の原因かもしれません。



発達段階の子どもにとって、物事ができるようになるにはさまざまなステップがあり、一定の順序があります。

学習においても、「机に座り先生の話聞き黒板の文字を写す」という行動には、机に座る→「姿勢を保つための体力・筋力・前庭覚」、先生の話聞く→「聴覚・視覚」、黒板の文字を写す→「視覚・眼球運動・手先の機能・ボディーイメージ・記憶力」などの様々な感覚の発達が必要になります。

ジャンプステージ学習塾では、「学習に取り組める土台づくり」として、「鉛筆を持ち座学のための学習」だけでなく、さまざまな感覚機能を発達させるための授業を取り入れていきます。

例えば、文字を書くのが苦手なお子様に対して、文字を書くのに必要な「指先の機能」の訓練として、「シール貼り・ひも通し・ボタンつけ」、「視覚・眼球運動・ボディーイメージ」の訓練として、「お手玉キャッチ・風船バレー・まねっこ遊び・棒パズル」、「記憶力」の訓練として、「真似して書こう・何がなくなった?・反対言葉」など、お子様の能力向上に合った授業を行っていきます。